



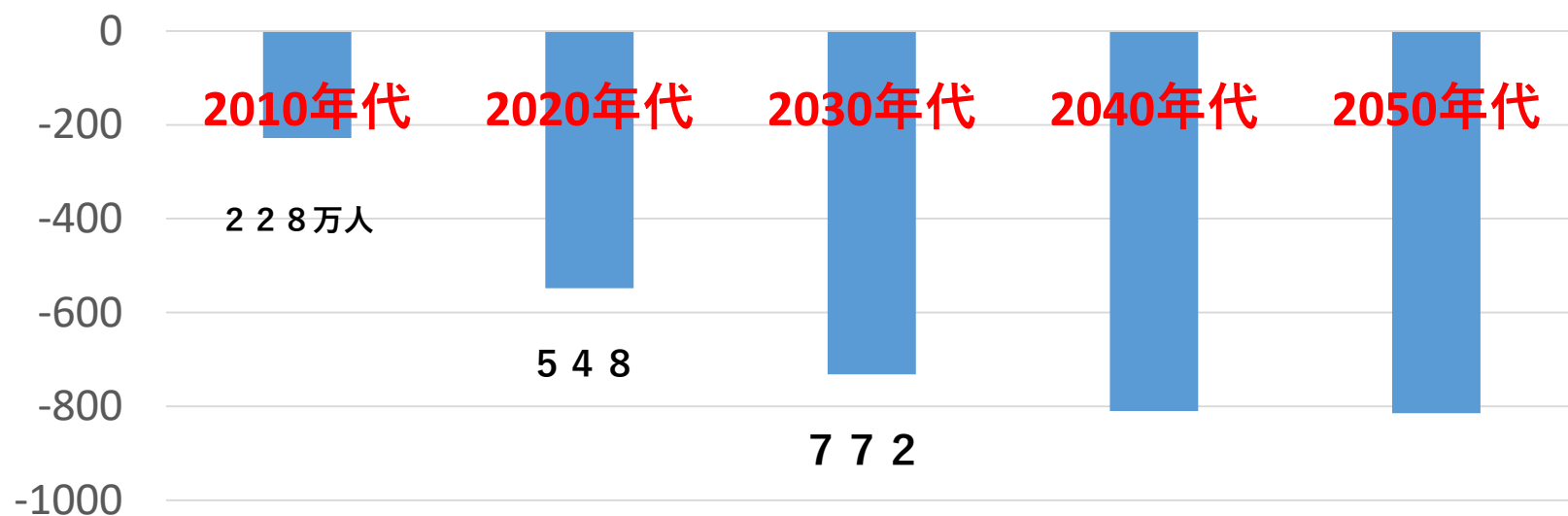
農業分野の担い手不足の課題解決 「トリプルウィン農村構想」に向けて

2019.7.19

(公財) 日本国際交流センター

執行理事 毛受敏浩 TOSHIHIRO MENJU

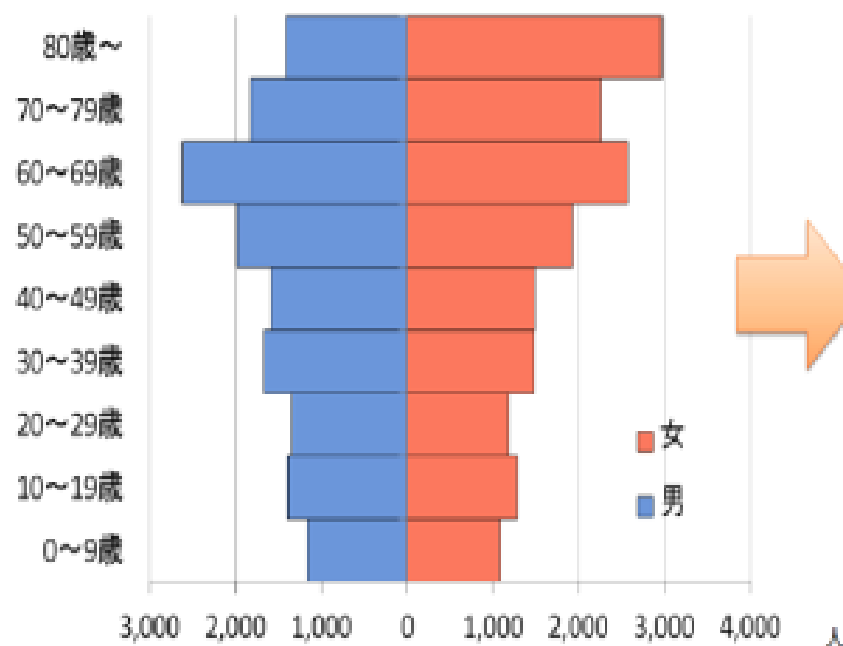
移民を入れても止まらない人口減少



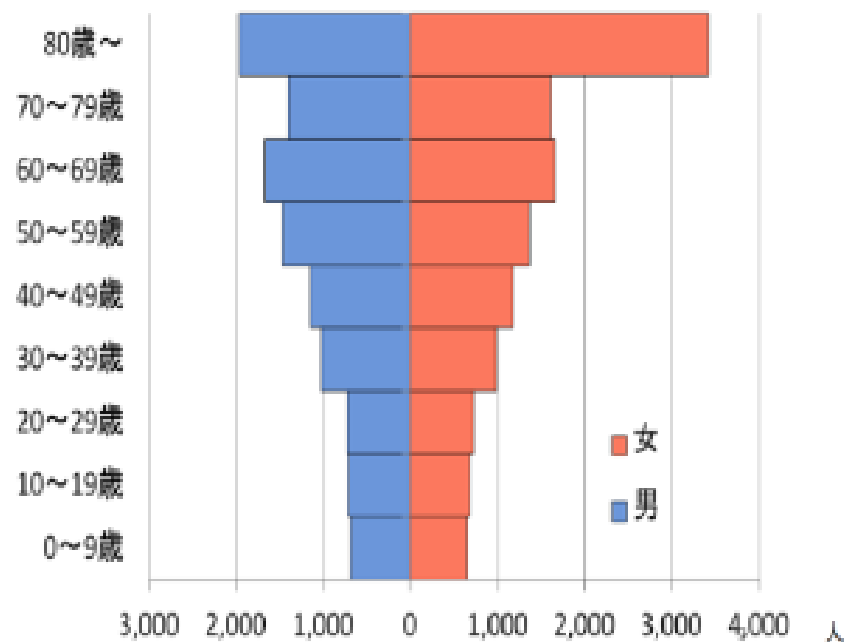
10年ごとに四国（380万人）、北海道（540万人）、中国地方（730万人）が消える

2035年の広島県安芸高田市

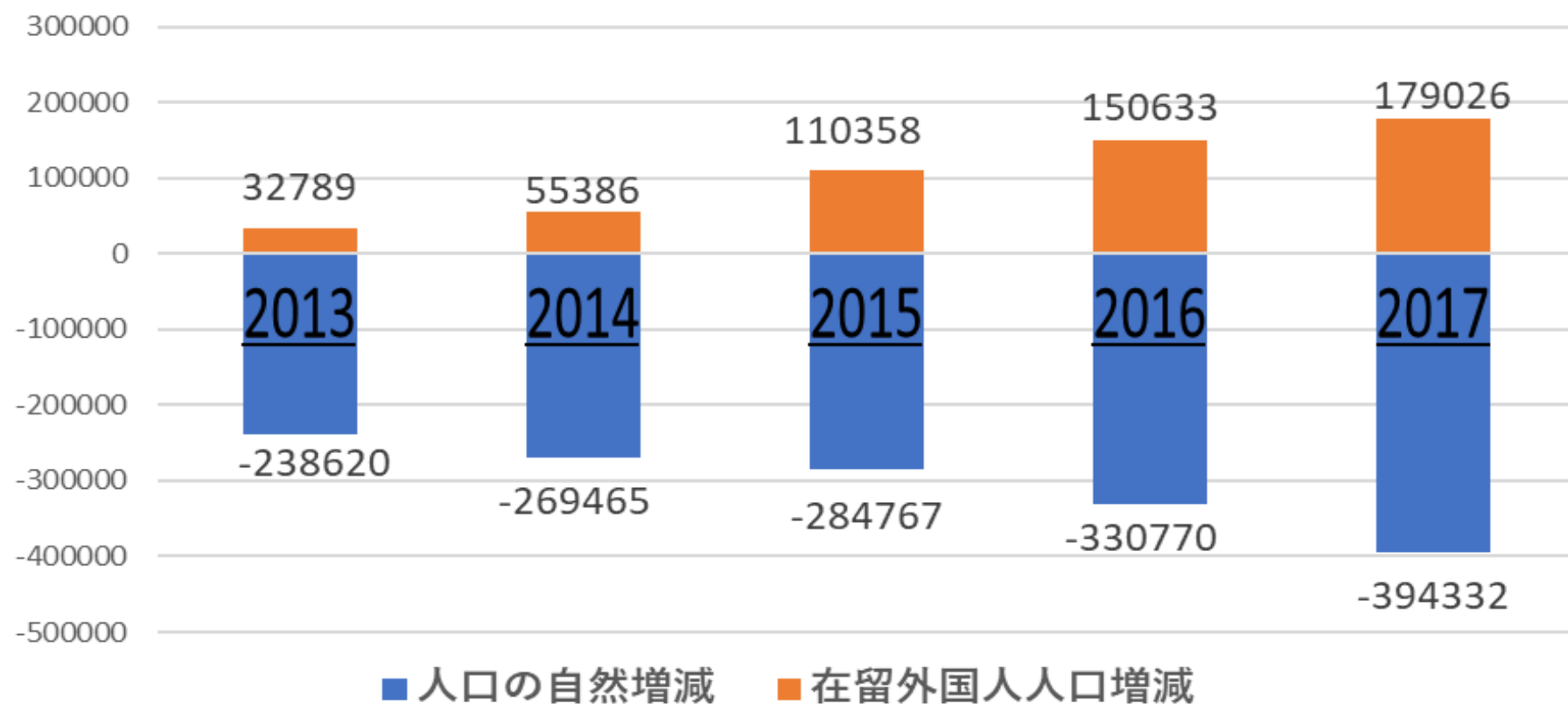
安芸高田市 男女年齢別人口
2012年(H24)12月末現在



安芸高田市 男女年齢別人口予測
2035年(H47年)22年後 出典)国立社会保障・人口問題研究所「市町村の将来推計人口」



日本の人口減少と在留外国人の増加



厚生労働省「2018年人口動態統計の年間推計」、法務省「2017年末現在における在留外国人数について」

外国人労働者受入れ

これまでの政策

高度人材のみ受入れ。ブルーカラーは就労目的で受入れず。
そのため本来、国際貢献の技能実習やデカセギ留学生の増大



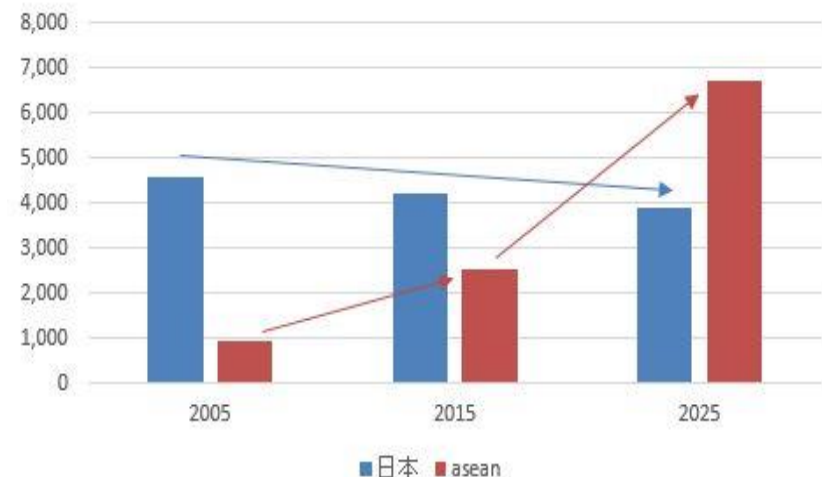
平成29年農業分野での技能実習生24,039人
平成28年に「不正行為」を通知された実習実施機関202機関
のうち「農業・漁業関係」は、67機関（33％）で最多。残業
代未払い、長時間労働多発。使い捨ての一時的労働者の認識

日本と途上国の現状

日本

- ・ 終わりのない人口減少
- ・ 社会の閉塞感と地域社会の持続性の危機
- ・ 高齢化で熟練技術者の枯渇
- ・ 一過性の外国人労働者受入れ

日本とASEAN諸国のGDP推移と今後(楽観)



途上国（東南アジア）

- ・ 若者人口の増加と農村から都市（or海外）への人口移動
- ・ 著しい経済成長

「改正入管法」と新方針のポイント

- （１）在留期間の上限を5年とする就労を目的とした新たな在留資格を創設する（「特定技能」の新設）**
- （２）滞在中に行う試験の合格者には家族帯同と定住を認める（特定技能1号⇒2号）ただし2業種のみ**
- （３）定住している外国人に対して生活者としての総合的な対応策をとる**

外国人受入れのステージ

従来 高度人材のみ受入れ、現場労働者受入れず
技能実習・デカセギ留学生増大で矛盾拡大



第一段階 現場労働への就労解禁、在留外国人への支援開始
(現在)



第二段階 現場労働者の育成・定着、在留外国人の社会の位
置づけ
(今後) 及び政府の責務明確化（在留外国人基本法）

「トリプルウィン農村構想」 一新発想の国際協力

目的

途上国と日本の両方の持続可能な地域づくり

⇒国際協力、国際交流、人の移動を通して日本、途上国、事業参加者の
3者すべてのエンパワーメントの実現

事業の骨子

1. 日本と途上国の農村との**継続的な地域間協力**の構築
2. 技術協力と国際交流の融合。「**双方向性**」
3. 農業を中心としながらも自治体、学校、NPOなど**幅広い地域コミュニティの参画**

トリプルウィン農村事業のメリット

日本側

- ・ 途上国との連携により、継続的な農業人材の確保
- ・ アジアとの直接協力・交流によるグローバル意識の涵養
- ・ 地域社会の持続性の担保（外国人に消防団、地方文化の担い手等）

⇒ アジア青年の力を借りて地域の持続性維持

途上国側

- ・ 日本との継続的な連携により技術移転、若者に国際経験、就業、グローバルな農村へ

トリプルウィン農村事業の実施

日本の農村地域

(理念)

外国人材を一過性ではなく、地域社会を担う可能性ある人材として受入れ

(実施方法)

- ・ 農業団体と自治体が協議会を結成し、途上国の特定地域の農業人材を地域ぐるみで受入れる体制構築
 - ・ 途上国から受入れた人材に、帰国する（技能実習、特定技能1号）、定住（特定技能2号）のオプションの提供
 - ・ 交流事業として地域のJA、NPO、経済団体、学校等が連携し、学校では生徒は互いに異文化を学ぶ。
- ※ 事業参加者は得られた経験、ネットワークをもとに送り出し地域と日本との関係維持に貢献。

途上国の農村

- ・日本と同様に農業団体と自治体が協議会を設立し、日本の地域への農業人材派遣を実施
- ・地域内の組織への働きかけと日本の地域との協力、交流についての調整

JICAの役割

- ・トリプルウィン農村事業の正式案件化、「双方向型の国際協力」の位置づけ
- ・日本、途上国での参加農村の発掘「モデル事業化」
- ・参加農村への本事業についてアドバイス及び国際協力事業における適切な財源支援
- ・日本側参加農村による外国人農業者定住化の政府への要望等のへの側面的支援

→先進国VS.途上国の論理を越えた新たな「未来型国際協力ビジョン」

→移民排斥の世界的動きの中でウィンウィンの受入れビジョンの世界への発信